

■(島田)柴屋軒宗長 連歌師。今川氏の外交官として諸国を巡遊、宗祇・肖柏と連歌史代表する「水無瀬三吟」「湯山三吟」。

さいおくけんそうちょう  
・・・・・・・・1448=

駿河国に誕生。島田鍛冶の出身と言われる。

道灌江戸城始1457= 9歳：

蓮如御文始・1461=13歳：\_この年家督を相続した今川義忠に、まもなく仕えるようになる。

\_都から駿河に下向する文人を接待する小姓役をつとめ、

・・・・・・・・1465=17歳：建徳寺の真言僧駿河宰相を師として、出家。  
・・・・・・・・1466=18歳：\_関東下向途中に義忠のもとに立ち寄った宗祇を清見寺に案内し、運命的の出会いとなる。  
**応仁の乱始**・1467=19歳：この年、応仁の乱が勃発し、  
・・・・・・・・1468=20歳：今川義忠が出兵して上洛した際、従軍したらしい。

義政隠居後見1473=25歳：正広を清見寺に案内。この年以降の遠江出兵に従軍するうち、  
・・・・・・・・1475=27歳：  
・・・・・・・・1476=28歳：\_この年、義忠が戦死し、今川氏に内紛。この頃、上洛して、宗祇に入門、一休宗純に参禅。初名、宗敏。  
**応仁の乱終**・1477=29歳：  
・・・・・・・・1478=30歳：\_上杉定房を訪ねる宗祇に従い、越後下向。宗祇の講義ノートをまとめ、「伊勢物語宗敏聞書」。  
・・・・・・・・1480=32歳：\_大内政弘に招かれた宗祇に従い、周防下向後、長門・筑前を旅し、「筑紫道記」。  
こうして、都の公家や幕府高官、地方の大名・豪族らに交際範囲が広がり、

銀閣寺造営始1484=36歳：  
山城国一揆始1485=37歳：\_三条西邸にて宗祇の「源氏物語」乙女巻の講釈を聴講、実隆と初体面か。「何路百韻」が最後の宗敏名。  
太田道灌暗殺1486=38歳：宗敏を宗長と改名し、\*「山何百韻」に、宗長の名で出座。  
・・・・・・・・1487=39歳：\_宗祇の種玉庵にて「葉守千句」に出座、第七の百韻の発句を詠む。  
加賀一揆支配1488=40歳：\_宗祇・肖柏と「水無瀬三吟」。能勢頼則主催の「撰州千句」に出座。北野神社会所にて宗祇の宗匠始めの「何路百韻」に出座。「大神宮法楽千句」独吟。

**足利義政没**・1490=42歳：三河下向。途中、伊勢山田で、\_若い人のため、最初の連歌論書「三河下り」著述。  
**大内義興入京**1491=43歳：この年、大徳寺真珠庵が落成し、百文寄進。\_有馬にて宗祇・肖柏と「湯山三吟」。  
明応の政変・1493=45歳：  
早雲小田原城1495=47歳：\_宗祇の種玉庵にて「新撰菟玖波集祈念百韻」に出座し、奏覧に至る「新撰菟玖波集」に39句入集。  
・・・・・・・・1496=48歳：三河国に下向して、\_おそらく20年ぶりに、駿河に帰国。  
・・・・・・・・1497=49歳：上洛。以後、上洛の都度、三条西実隆には必ず挨拶に伺う。  
・・・・・・・・1498=50歳：細川氏あげての大行事「細川千句」に出座。  
**蓮如没**・・・1499=51歳：ふたたび「細川千句」に出座後、駿河帰国。  
・・・・・・・・1501=53歳：越後に宗祇を訪問、発病し、風雪のため越後で越年、地震に遭遇。  
・・・・・・・・1502=54歳：\*宗祇・宗碩と越後出発、箱根湯本で宗祇が死去、駿河国桃園の定輪寺に埋葬後、実隆ら都の人に、「宗祖終焉記」を書き送る。  
・・・・・・・・1504=56歳：伊豆三島社にて今川氏親戦勝報賽の「出陣千句」独吟し奉納。  
・・・・・・・・1505=57歳：上洛し、「山何百韻」後、伊勢山田に寄って、帰国。この年、一女誕生。  
・・・・・・・・1506=58歳：宇津山丸子の北の泉谷に、斎藤安元の援助で、柴屋軒を結庵。

細川政元殺害1507=59歳：氏親が柴屋軒に來訪。三河国牧野古白一回忌追悼百韻独吟。この年、一男承龍(後、誰庵)誕生。  
義植入京将軍1508=60歳：\_上洛。実隆邸にて、今川氏資金背景に盛大な宗祇七回忌追善品経和歌披露を主催。駿河帰国。  
・・・・・・・・1509=61歳：\_関東地方を巡る旅に出、合戦と大雨の洪水のため白河関一見は断念したが、「東路のつと」を書き、旅先で世話になった豪族らに贈る。江戸で、上杉朝良と建長寺天源庵領について交渉成立。

**朝鮮三浦の乱**1510=62歳：実隆から御服御料所上総国畔蒜荘の収入が確保できよう依頼の書状が来る。  
**遣明使**・・・1511=63歳：福島範為が遠江国羽鳥荘に関する幕府奉行人飯尾貞運への返書について相談に来る。  
早雲相模城・1512=64歳：この年、今川氏親が飯尾貞運に羽鳥荘の黄金十両送る。\_第一句集「壁草」成立。  
・・・・・・・・1514=66歳：今川氏親の厄年祈禱のため浅間新宮に参籠し、「浅間千句」独吟。  
・・・・・・・・1515=67歳：柴屋軒を出発し、甲斐・信濃・美濃・近江・越前・若狭を経て、7年ぶりに上洛。  
**義興遣明船**・1516=68歳：有馬に湯治し、撰津国人を訪問。「細川千句」に出座。宗碩の草庵月村齋にて、近江国中江貫繼主催「十花季句」に出座。朝倉教景の招きで敦賀の気比神社の新宮造営連歌に出座。伊勢山田に寄って、駿河帰国。  
・・・・・・・・1517=69歳：\*氏親から特命を受け、甲斐国に包囲された駿河勢救出のため武田信虎と交渉し、成立。従軍し、天龍川舟橋祈願の千句に出座。一段落し、半生を綴った自叙伝「宇津山記」をまとめる。第二句集「那智籠」も成立。

**義興周防帰国**1518=70歳：伊勢山田に寄って、上洛し、東山丸山の安養寺にて能勢頼則(頼豊)三回忌の「東山千句」主催。  
・・・・・・・・1519=71歳：大徳寺山門再建につき越前国一乗谷に、急遽下向。伊勢山田に寄って、駿河帰国。  
・・・・・・・・1520=72歳：  
・・・・・・・・1522=74歳：上洛途中、伊勢山田にて宗碩と「伊勢千句」両吟。山城国薪の酬恩庵に滞在。紀行文「佐野のわたり」。

**寧波の乱**・・・1523=75歳：薪より上洛、実隆と贈答歌後、越前に下向し、朝倉氏と大徳寺山門再建の寄進を交渉。有馬に湯治後、芥川城山の能勢源五郎の千句に出座。薪酬恩庵にて宗鑑たちと俳諧に興ずる。  
・・・・・・・・1524=76歳：薪より上洛。「細川千句」に出座。宗碩の月村齋にて種村貞和主催「伊庭千句」に出座。氏親治療のため招請した清宮内卿法印を伴い、駿河帰国。落馬して半身打撲し、一時右手利かず。  
・・・・・・・・1525=77歳：七十八歳九月尽に正親町三条実望・今川氏親たちが歌を寄せる。今川氏輝元服の祝言連歌、古今集聞書五冊・口伝切紙八枚進上。中御門宣胤の月忌に今川氏親室(宣胤女、後、寿桂尼)と追悼歌贈答。「何人百韻」。

以後管領不在1526=78歳：北川殿(今川氏親母)に見参。上洛し、待望の大徳寺山門の完成を見る。波多野植通ら細川高国に対し挙兵で、戦乱を避け近江国矢島少林寺に滞在。朝比奈氏賛歌たる「宗長手記」上巻成る。この年、\_今川氏親が死去し、また、細川高国政権が崩壊すると、外交官としての役割が意味をなさなくなり、  
・・・・・・・・1527=79歳：所望して近衛尚通・三条西実隆らの今川氏親追悼品経歌を頂き、宗牧を同行して駿河帰国。今川氏親一回忌に百韻独吟したりするが、\*氏親死去に帰国しなかったこともあって、冷遇され始め、柴屋軒に篋居。「宗長手記」下巻もここで中断、  
・・・・・・・・1529=81歳：鎌倉建長寺に滞在。三条西実隆に書状を送る。  
**遣明船復活**・1530=82歳：駿河にて正親町三条実望が死去し、正親町三条公兄と追悼歌を贈答。柴屋軒の庭を掘り返し田畑をつくる。相模国小田原・伊豆国熱海に滞在し湯治。\_「宗長手記」下巻を再開したが、

**天王寺合戦**・1531=83歳：独吟千句を詠む。\_寂しく筆を絶ち、  
大和一向一揆1532=84歳：駿河国で、\_没した。  
角川叢書「戦国を往く連歌師宗長」、松岡心平「中世を創った人々」、「人づくり風土記(宮崎)」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、日本の古典名著、